普及活動情勢報告（令和４年９月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

複合経営で稼ぎ暮らせる農業を！　～　津野山地域で加工用ワサビを推進　～

推進資料を確認する農家

８月、津野山地域で、JA高知県津野山営農経済センター及び当課職員が、複数ハウスを持つ11戸に対して、加工用ワサビの栽培を推進しました。

当課は、農家の所得向上に向けて基幹品目に補完品目を組み合わせた複合経営を推進しており、今回は、補完品目として前年度に作成した加工用ワサビの経営モデルを紹介しました。

農家からは加工用ワサビの栽培管理や、肥料価格の高騰などによる経費増加について質問がありました。

今回の取組では、新たな栽培農家を増やす事はできませんでしたが、今後も関係機関とともに複合経営を推進していきます。

ユズ産地の活性化を目指して！　～津野山地域ユズ産地協議会を設立～

津野山地域ユズ産地協議会設立総会

８月22日、JA高知県津野山営農経済センターで、津野山地域ユズ産地協議会設立総会を開催しました。会には、ユズ部会役員と農業関係機関職員16人が出席しました。

当課は、約200戸、22haのユズ産地の維持、高齢化による労働力不足などの課題解決のために、津野山地域ユズ産地協議会規約（案）や、津野山地域ユズ産地構造改革計画（案）等の作成を支援してきました。

協議会の設立、ユズ産地構造改革計画の承認により、果樹経営支援対策事業が導入できるなど、産地の課題解決や活性化に向けた道筋が見えてきました。

当課は、今後も協議会の活動、ユズ産地の活性化を支援していきます。

キュウリ IPM 防除の普及に向けて！　～令和４園芸年度 IPM 実証試験結果を報告～

調査結果を説明する普及指導員（右）

８月23日、26日、９月９日に、令和４園芸年度キュウリIPM実証試験について、当課とJA土佐くろしお営農指導課が、管内の実証農家３戸を交え、試験結果の報告と意見交換を行いました。

試験では、リモニカスカブリダニとスワルスキーカブリダニの同時放飼による天敵の定着性と、黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマに対する防除効果について検証しました。

実証農家からは「同時放飼の効果を感じられたので、次作も導入したい」「天敵を入れることで、ミナミキイロアザミウマが抑えられ、黄化えそ病は発生しなかった」といった声が聞かれました。

今後は、試験結果と実証農家の感想をまとめた資料をキュウリ部会員に配付して、IPM防除の普及を図っていきます。

農業労働の身体への負担軽減を目指して　～アシストスーツの紹介～

アシストスーツを装着する農家

８月 24 日、26 日に須崎市、椿原町の水稲農家など８人を対象に、農作業時の姿勢を良くし身体の負担軽減に効果のある、アシストスーツを紹介しました。

管内では農家の高齢化が進んでいるため、作業の省力化・効率化に向け、アシストスーツなどのスマート農業の取組を進めています。

装着してみた農家からは、「ぜひ作業の時に着用してみたい」といった声が聞かれ、当課から４着を貸し出し、実際の作業で着用してもらうことにしました。

当課は、今後もアシストスーツなどのスマート農業の導入を推進していきます。

集出荷場の衛生管理・労働環境をチェック！　～JA 土佐くろしお集出荷場で GAP 点検を実施～

集出荷場担当者と点検する普及指導員

８月25日に、JA土佐くろしお営業課・営農指導課職員とともに、３集出荷場を巡回し、場内の衛生管理、出荷調整の労働環境などをGAP確認シートに沿って点検しました。

農産物受込み場所の清掃、出荷用段ボール箱の保管、作業台の照度、帳簿の記帳などが適切に実施されていました。

参加者は集出荷場担当者と点検結果や改善対策を共有し、「改めてGAPの実施状況や改善点を確認できた。結果を参考に、引き続き取り組みたい」との声が聞かれました。

今後も出荷工程における適正な衛生管理や労働環境が維持できるようJA土佐くろしおと連携した活動を行っていきます。

そぐり作業の動画をみてみよう！　　～ニラの調製作業の改善～

真剣に動画を見る生産者

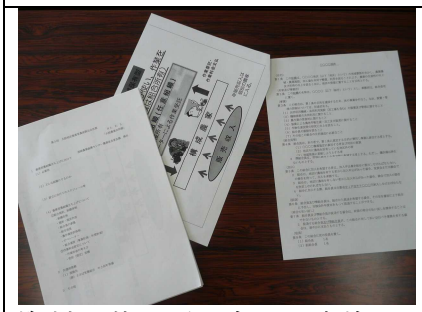
９月５日、ニラのそぐり作業を撮影した生産者３戸に対し、調整作業場で、当課職員とJA営農指導員が動画分析した結果をフィードバックしました。

作業動画を見てもらいながら、各生産者の工夫の紹介等と、作業場のレイアウト変更やニラの運搬回数削減などの改善を提案しました。

生産者からは、「他の家の作業の工夫ややり方を見て勉強になった」「物の配置や運搬を工夫してみたい」といった意欲的な声が聞かれました。

今後は、各生産者と協議しながら、個別に作業改善の取組を支援していきます。

新たな集落営農組織づくりに向けて！　　～大股地区の話し合い～


資料を基に話し合いを実施

９月５日、中土佐町大股農業共同館に地区の農業者６人が集まり、集落営農組織づくりに向けた手順や先進地視察について、当課が準備した資料を基に話し合いを行いました。

昨年度までの話し合いで、機械の共同化・共同作業から集落営農に取り組むことを決めており、今夏、約３haの水田で防除作業を実施したことを確認しました。

今後は、組織運営を学ぶために、中土佐町内の集落営農組織を視察することが決まりました。当課は、規約の制定など大股地区の組織づくりを支援していきます。

ミョウガの増収要因の解明に向けて　　～データ駆動型農業の実践～

BI ツールを活用して検討する関係者

９月６日、会議室で「ミョウガのデータ活用方法」について、IoPプロジェクト村川アドバイザーを迎え、JA土佐くろしおと当課職員が検討会を行いました。

ミョウガは生理生態等が解明されていないことが多く、収量増加に必要な日射量等が分かっていません。今回は過去15年間の産地出荷量と日照時間についてBIツールにより分析しました。その結果、厳寒期の日照時間が多い年は春先の出荷量が多い傾向があることが分かりました。

今後はほ場毎の出荷データと気象データを分析し、栽培指導へBIツールを活用していきます。